



平成 28 年 1 月 29 日

各 位

上場会社名 株式会社 商船三井
 代表者 代表取締役 社長執行役員 池田 潤一郎
 (コード番号 9104)
 問合せ先責任者 経理部長 実 謙二
 (TEL 03-3587-7041)

平成 28 年 3 月期通期業績予想の修正並びに構造改革に関するお知らせ

平成 27 年 10 月 30 日に公表した平成 28 年 3 月期の業績予想を下記の通り修正しましたので、お知らせ致します。またこれに関連し、構造改革及び第 4 四半期における特別損失計上見込みにつきお知らせ致します。

記

1. 平成 28 年 3 月期通期 連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,758,000	5,000	42,000	17,000	14.21
今回発表予想(B)	1,720,000	△5,000	32,000	△175,000	△146.31
増減額(B-A)	△38,000	△10,000	△10,000	△192,000	
増減率(%)	△2.2%	—	△23.8%	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	1,817,069	17,249	51,330	42,356	35.42

修正の理由

通期業績につきましては、燃料油価格の低下が追い風となったものの、ドライバルク船の市況が想定を大きく下回り、またコンテナ船において運賃率の回復が遅れていることを考慮した結果、営業利益、経常利益の前回予想を下方修正致しました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、後述の構造改革に係る費用を織り込んで前回予想から大幅に下方修正し、1,750 億円の損失を見込みます。

2. 構造改革及び第 4 四半期における特別損失計上見込みについて

当社は、昨今の事業環境に対応して構造改革を進めることとし、個別対策の詳細を検討しております。

(1) 背景

ドライバルク船では、昨年秋以降、中国経済減速に伴う荷動き停滞が船腹需給の不均衡に拍車をかけ、市況は過去最低水準にまで低下しています。またコンテナ船においても、新造船の継続的竣工の一方で荷動きは欧州・新興国向けを中心に低迷し、昨年来、運賃率は歴史的な低水準で推移しています。今後一定の市況回復は期待しつつも、その不確実性を考慮し、当社は、激変する事業環境に対処するためこれら事業の構造改革を推進することと致しました。

(2) 構造改革の概要

ドライバルク船においては、ケープサイズのフリー船を更に縮減すると同時に、パナマックス以下の中小型バルカーについてはマーケットでのフリー運航からは撤退し、顧客の輸送需要に応えることに集中していきます。また、コンテナ船においては、主として南北航路の合理化、中型船を中心とする船隊の縮小等を通じて固定費を削減した上で、営業体制を強化し、採算性を重視した集荷の徹底等を通じて損益の改善に取り組みます。個別対策の詳細については、決定次第、開示規則に従って別途発表致します。

(3) 費用

本構造改革のため、当連結会計年度の第 4 四半期において、ドライバルク船及びコンテナ船事業に係る船舶の処分等の費用として、最大で約 1,800 億円の費用を特別損失として計上することを見込んでおります。

なお、平成 29 年 3 月期が最終年度となる中期経営計画「STEER FOR 2020」に関しては、事業環境の急激な悪化、上述の構造改革の実施決定を受けて大幅な修正が必要になりましたので、新年度の事業計画を新たに策定して発表する予定です。

（注）上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後のさまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上